

～富士見市で誕生した新しいスポーツ～ 「バトテニス」をはじめてみませんか

バトテニス
について市の担当者
に伺いました。

勝者も敗者も、試合が終
われば握手でお互いの健
闘を称えあいます。



バトテニス「基本」ルール

(2011年6月現在)

6.1m

13.4m

- <チーム>
1チーム2人のダブルス競技です。
年齢制限はありません。(自分が出来ると思えばOK)
男女でも、年の差60歳でも、組みたい人と組んで楽しみましょう。
- <コート>
コートの大きさは、バドミントンのダブルスコートと同じです。
ネットの高さは、基本2mです。
- <用具>
ラケット...ラケットテニス用ラケット・ボール
ボール...ソフトバレーボール又はインディアカ用ボール
(やわらかいスポンジボールです)
- <勝敗>
・ラリーポイント制 1セット11点先取(ジュースなし)
・基本的に3セット制で2セット先取したチームの勝ちになります。1試合20分程度
(1セットマッチ有り)
- <ゲームの進め方>
・サーブとレシーブは必ず1バウンドしてから打ちます。
・ラリー中はノーバウンドか1バウンドで打ちます。
・ボールは2打以内で相手に返してください。
・ボールがネットした場合は、次の1打で相手コートに返すことができます。
2打目がネットした場合は3打で返すことができます。
など、分かりやすくラリーが続くようなルールになっています。
また、現在でもルール改正を行い、さらにプレーしやすくなるよう、
心がけています。なお、詳細を知りたい方は、生涯学習課まで
お問合せください。

秋が日増しに深まってきました。秋と言えば「スポーツの秋」。一口にスポーツと言っても、いろいろありますが、特に球技種目の場合、体がゲームについていけない、技術が要求される、仲間がいないなど、参加するのをためらう方もいらっしゃると思います。

そこで、今回は、富士見市で誕生した「バトテニス」を紹介します。あの猛暑での運動不足の解消にもってこいです。



超爆発！ジャンピング
ボレースマッシュ

ラケットテニス用のラケットと
スポンジのボール

バトテニス誕生のいきさつ

発案者は、鶴瀬小学校区の体育指導委員の森嶋立美さんです。きっかけは、鳥取県泊村(現湯梨浜町)が発案した「グラウンドゴルフ」のように自分たちも全国規模のスポーツを生み出したい、との思いからでした。そのような中で、様々なスポーツを組み合わせて、変わったスポーツを創造したら面白いのでは、と考え試行錯誤の末「バトテニス」が平成18年度に産声を上げました。誕生当初は「バドミントン+テニス」で「バドテニス」だったのですが、「バトミントン」と覚えてる人たちが「バトテニス」と呼び、だんだんそちらが主流となり、結局「バトテニス」となりました。

このスポーツのウリは、ルールが簡単で、危険も少ないので、幅広い年代で取り組むことができ、また、他のスポーツの道具を使ったスポーツなので、新たな道具の購入・作成の必要がないことです。

巡回教室参加者に聞いてみました

「気持ちのいい汗かいています」

バトテニス・サークルの巡回練習が月3回開かれていて、早稲田が8月13日(土)に会場のひとつとなっている諏訪小学校体育館(第3土曜日の会場)をお邪魔しました。お盆の土曜日夜ということもあって、参加者は普段よりも少ない人が多かったが、暑い中、汗を流しながら練習がはじまりました。

動きそのものはバドミントンやテニスと比べれば「かなり、ゆっくり」している感じで、ここいら辺りが性別や年齢にかかわらず楽しめるという、この球技のポイントかもしれない。この球技のポイントを聞いてみました。

休憩時間に女性参加者の一人、Yさん(羽沢在住)に話を聞くことができました。Yさんは昨年12月に、ご覧版で同サークルの巡回教室のことを知って入会したそうです。動機は「運動不足の解消」が目的でした。

「ラケットを使うスポーツの経験はありませんが、もともと運動は嫌いではありません。苦にはなりません。練習には毎回参加しています」と話し、今年7月に行われた大会にも参加したそうです。「かく汗が気持ちがいいし、もっと上手になりたい」と、額から玉のような汗を流しながらも楽しそうでした。



普及活動や今後の展望

体育指導委員が行う「ニュースポーツ巡回教室」を「バトテニス巡回教室」に変更し、市内の各小学校にて巡回指導を行いました。また、同じように市内小学校区で行われる「体育指導委員」地区事業の中でもバトテニスを積極的に取り入れていきました。地道な活動により着実に知名度が上がり、巡回練習の参加者も増えてきました。それにより、平成22年9月18日に参加17チームで第1回バトテニス大会が市体育館メインアリーナで開催され、翌23年7月2日にも参加17チームで第2回バトテニス大会が同会場で開催されています。

今後は各小学校区でチームやサークルが生まれ、裾野が広がり、活発に活動していくことにより、全市的な盛り上がりが見え、そして、老若男女みんなが手軽に楽しむことの出来る、この富士見市発祥のバトテニスを全国に発信し、関東大会・全国大会をこゝ富士見市で開催するのが目標です。そのためには、興味を持って下さった多くの皆さんの参加をお待ちしています。お気軽にお問い合わせ下さい。問合せは、富士見市教育委員会生涯学習課 049-251-2711 内636 まで。



相手はペア合計130歳を超える強敵
老練コンビ
立ち向かうは非力な小学生と女性の
ペア、激闘の行方は？

取材を終えて
今号は富士見市発祥の「バトテニス」を特集しました。この新しいスポーツの「売り」は性別や年齢を問わず一緒に楽しめることです。記事のように、初めて参加した小学生の女の子がすぐに大人に混じって練習試合を楽しんでいました。

興味のある方、巡回教室に参加してみませんか？

(この特集は、桑名、大竹が担当しました。)

紗英ちゃんは、コーチからサーブを含めたラケットの使い方の手ほどきを受け、すぐさま大人に混じってプレーに参加しました。コートから離れたあと、「初めてだけど楽しかった。福島にもバトテニスがあったらいいな」と、思いがけない夏の経験を楽しそうに話していました。



果ちゃん(9歳)、伴もか(4歳)の姉妹でした。転勤で現在は福島県郡山市に住んでいますが、夏休みで富士見市内の祖父宅に遊びに来ている最中でした。

当日、その鈴木コーチから熱心な指導を受けていたのが、練習に「特別参加」していた桑名紗英ちゃん



るようでした。

巡回練習を開いていることについては、3会場を巡回しているのは、バトテニスをPRし、できるだけ多くの人に参加してもらいたいからです」と、普及活動への熱意の一端が伺えます。

バトテニスの魅力については「老若若くも、性別も関係なく、誰でも参加できるし、ルールも簡単。ペアでもやるのがいいし、その組み合わせも自由」と、明快に説明し、あわせて「激しい運動ではないし、練習で適度な汗をかくのは健康にもいいですよ」と健康維持の面でもその効能を強調していました。

諏訪小、鶴瀬小、つるせ台小で巡回練習を開いていることについては、バトテニスをPRし、できるだけ多くの人に参加してもらいたいからです」と、普及活動への熱意の一端が伺えます。

サークルの普及・発展に力を注いでいる関係者のひとり、コーチや審判として会員のサポートをしていく市体育指導委員で「バトテニス担当」副部長の鈴木榮さん(関沢在住)です。鈴木さんは当日の練習にも参加されていましたので、練習に図る立場からのお話を聞いてみました。